

1年 単元名：総合的な学習の時間（海洋学習） 「牡蠣の養殖体験活動」（6時間）

1 単元設定の理由

「日生千軒漁師町」と呼ばれていたほど日生は古くから漁業で生業を立てていたが、近年は漁獲量の激減と漁師の減少により、漁業に従事している保護者も数%にまでになり、漁業が身近なものとはいえない現状がある。そこで、現在の日生を代表する「牡蠣養殖」を実体験させることで、日生の漁業と海洋、そして日生の将来について考えさせるために本単元を設定した。

2 単元目標

- ・地元の基幹産業である漁業，その中心である「牡蠣養殖」について体験活動を通して学ぶことで，地域の特性（日生と漁業の関わりなど）と海洋および漁業の現状を理解させる。
- ・体験を通して勤労の苦労と喜び，大切さを学ばせる。

3 単元の評価基準

- ・「牡蠣の養殖」過程を理解するとともに，日生の地場産業である漁業の現状と課題（海の問題など）が正しく理解できている。
- ・各自の担当の仕事を手順に従って作業を行うことができている。

4 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点						
1	【事前学習】（日生町漁協天倉専務の講話） ・日生の海洋と漁業について説明を受ける。	○海洋学習に対する興味や関心，意欲をもたせる。						
2	【種付け作業】 ①稚貝の付いたホタテの貝殻（種牡蠣）をロープに取り付ける。（1本に5個） ②カキ筏にロープを吊す。	○漁師の方々の指導を受けて作業することで交流をはかり，アマモ場再生活動の布石とする。						
2	【経過観察】（生育状況の確認） ①海上のカキ筏に行き，各班1本のロープを引き上げて，夾雑物を取り除く。 ②漁師の方に牡蠣を剥いてもらい，牡蠣の生育状況をスケッチし，感想も含めてレポートする。	○海中で牡蠣がどのように生育しているかを学ばせる。 ○夾雑物から海洋の生物多様性を感じさせる。						
4	【洗浄・箱詰め作業】 ①役割分担に従って，それぞれの持ち場に分かれる。 ②カキ場に水揚げされた牡蠣を籠を使って夾雑物を取り除き，海水できれいに洗浄する。 ③洗浄した牡蠣を箱詰めする。 その際，親類に郵送する箱の中に手紙を入れる。 ④残った牡蠣をパーベキューにして皆でおいしく食べて海の恵みに感謝する。 ⑤全員でカキ場と食事場所を清掃する。	○漁師の方の指導を受け，丁寧に作業を行わせる。 ○事前に，送り先の親類に宛てた手紙（メッセージ）を思いを込めて書かせる。 ○事前に，保護者の参加・協力を呼びかけ，生徒と一緒に作業を行っていただく。						
<p>外部連携</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">○認定NPO法人共存の森ネットワーク</td> <td style="width: 50%; border: none;">○NPO法人里海づくり研究会議</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">○NPO法人岡山環境ネットワーク</td> <td style="border: none;">○笹川平和財団海洋政策研究所</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">○寺間・見崎里浜づくり会</td> <td style="border: none;">○立命館大学，岡山学芸館高等学校 他</td> </tr> </table>			○認定NPO法人共存の森ネットワーク	○NPO法人里海づくり研究会議	○NPO法人岡山環境ネットワーク	○笹川平和財団海洋政策研究所	○寺間・見崎里浜づくり会	○立命館大学，岡山学芸館高等学校 他
○認定NPO法人共存の森ネットワーク	○NPO法人里海づくり研究会議							
○NPO法人岡山環境ネットワーク	○笹川平和財団海洋政策研究所							
○寺間・見崎里浜づくり会	○立命館大学，岡山学芸館高等学校 他							